

2023 11 28 株式会社あわえ

二地域居住を加速するデュアルスクールについて



 GOOD DESIGN AWARD 2022
グッドデザイン金賞

DUAL SCHOOL®





実施業務

・デュアルスクール

※デュアルスクールは当社の登録商標です

- ・サテライトオフィス誘致
- ・起業家育成
- ・テレワーカー育成
- ・六次産業化支援
- ・地域広報代行
- ・企業版ふるさと納税支援事業

設立

2013年6月 設立

理念

日本の地方をもっと元気に 地方の力で日本を元気に

事業

地域課題をビジネスで解決する

オフィス

美波町本社、東京、八女市（福岡県）、古賀市（福岡県）
小千谷市（新潟県）、加美町（宮城県）、真鶴町（神奈川県）、
安平町（北海道）

実績

- ・デュアルスクールがグッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）受賞
- ・徳島県にてデュアルスクール受け入れ20家族以上
- ・「ふるさとづくり大賞」優秀賞（総務大臣表彰）を受賞
- ・「情報通信月間」総務大臣表彰（団体）を受賞
- ・294自治体以上の支援実績
- ・三大都市圏の企業160社以上を支援自治体へ誘致
- ・美波町へサテライトオフィス28社誘致（2022.8時点）
- ・美波町の「地方創生パートナー企業」に就任
- ・地域人材育成事業を2013年より実施。累計30人を育成し輩出
- ・地方創生テレワーク推進運動 Action宣言





実績: 自治体支援実績

<コンサルティング契約・マッチングイベント出展など>(2023年11月現在)

国、省庁、その他団体

- 総務省、財務省
- 消費者庁
- 中国経済産業局
- (公益)東京都都市づくり公社、(一社)日本経営協会
- (一財)自治研修協会、国土計画協会、地域活性化センター
- 地域総合整備財団(ふるさと財団)、
- (独)日本貿易振興機構(ジェトロ)
- (株)日本政策金融公庫 など

都道府県別導入率 89.4%(自治体数294)
全国各地へのサテライトオフィス誘致件数160社



あわえ・ミライの学校、日本ワーケーション協会への加盟及びパートナーシップを締結

「**社会変化に伴う、人々の多様な働き方・暮らし方・価値観に対応し、より自分らしい多様な複数同時選択ができる社会**」を目指すために、一般社団法人日本ワーケーション協会への加盟およびパートナーシップを締結しております。

取組内容

- ・ワーケーションやテレワークなど新しい働き方の課題解決
- ・場所にとらわれない教育のあり方の模索、実証、提言
- ・持続可能な地域づくりのための関係人口創出に関わる課題解決
- ・その他社会変化に伴う、様々な課題解決



徳島県徳島市出身

吉田 和史

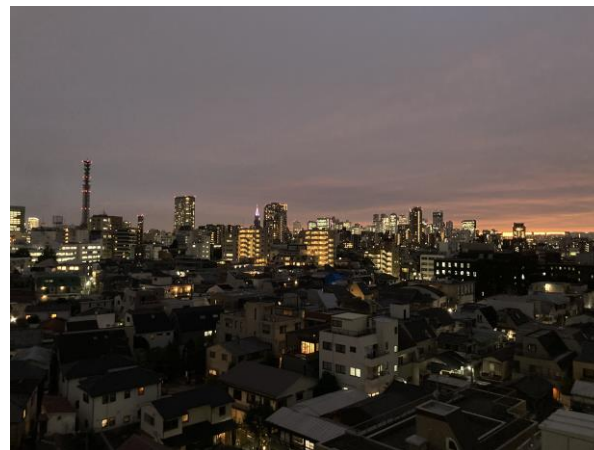
株式会社あわえ 取締役 執行役員地方創生推進部 部長

趣味：映画鑑賞、格闘技鑑賞、料理

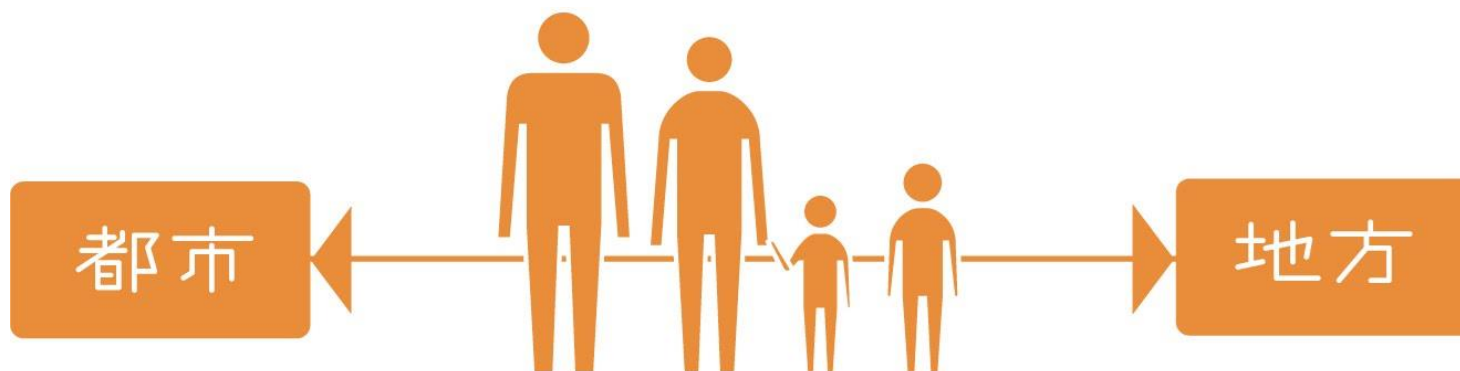
桶川（埼玉）↔日本全国（多拠点居住？）

月の1/3は地方で過ごしてます

山形で家探し中



DUAL SCHOOL®



地方と都市の両方のよさを教育活動に取り入れることができるよう、地方と都市の二つの学校が一つの学校のように教育活動を展開することができる「**新しい学校のかたち**」のこと。

「**二地域居住**」や「**地方移住**」を促進する際の子どもの**教育上の課題を解消するとともに、親の働き方改革や、地方と都市の双方の視点を持った児童・生徒の育成**が目的。

デュアルスクールの仕組み

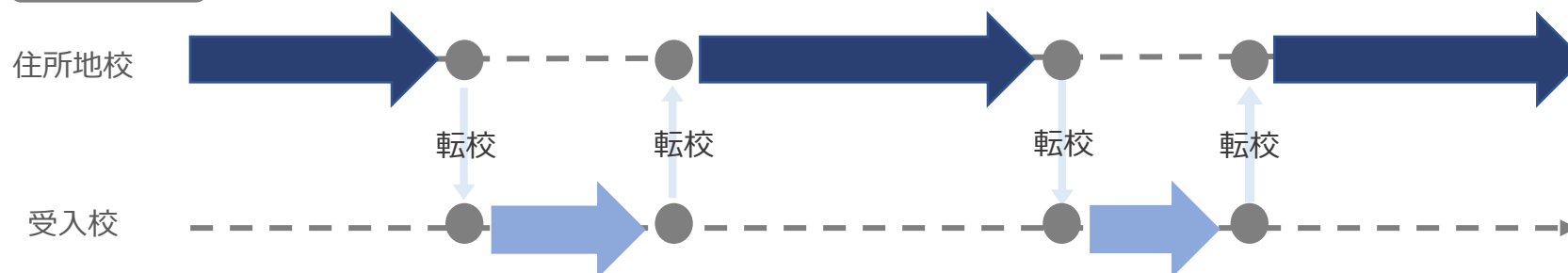
前提

現行の学校教育制度では、2つの学校に籍を置くことはNG

仕組み

- ・ **区域外就学制度**を活用した転校。**住民票の異動をすることなく**他地域への公立小中学校へ学籍を異動でき、**滞在先の小中学校に通学が可能**となる
- ・ **一時的な転校**をすることになるので住所地の学校では欠席とならず、受入校に登校することで受入校での出席日数として認められる

学績の動き





デュアルスクールの関心拡大

- ・ 2023年 amazonベストセラー「多拠点ライフ」で紹介
デジタル庁シェアリングエコノミー伝道師の石山アンジュさま著書
- ・ 2023年 参議院自由民主党政策審議会 政策提言
地域の「底力」をミライへつなく 実効的な諸施策43
- ・ 2022年 真相報道 バンキシャ! (日本テレビ)
- ・ 2022年 **グッドデザイン金賞受賞**
- ・ 2017年 **第10回全国知事会 先進政策大賞 受賞**
※徳島県独自の教育政策
- ・ 2016年 NHK徳島 (2017年全国放送)
- ・ その他 四国放送 / 朝日新聞 / 共同通信 / 時事通信 / 毎日新聞 / 徳島新聞



表彰状
先進政策大賞
徳島県知事 大賀 典康
「多拠点ライフ」は、多様な働き方や生活スタイルを可能にする新しい働き方・暮らし方を示唆し、地域活性化や働き方改革の推進に貢献するものとして、先進政策大賞を受賞する。この功績をたたえ、表彰状を授けらる。

授賞式 2023年10月10日
授賞者 石山アンジュ

授賞式 2023年10月10日
授賞者 石山アンジュ

【1】「多拠点ライフ」の功績
【賞目1】 コロナ禍による在宅勤務の普及や、自営体の実態への配慮
【賞目2】 地域ぐるみの子育てと職住近接の地域づくりの推進
【賞目3】 仕事と家庭を両立する働き方推進策(在宅勤務推進策)と文職の育児負担の軽減
【賞目4】 非正規や単身赴任者等の生活が困難である若者の救済
【賞目5】 同じ自治体暮らしながら地域全体の出産率の向上を目指す政策
【賞目6】 働き方の多様化を促す、世界の労働力人口増減に合わせた生涯学習化、知識支援策等の強化
【賞目7】 働き方支援の観点からデジタル庁の働き方支援の推進策
【賞目8】 自治体における「こもれ果実」を機会に提供する働き方の推進と体制の充実
【賞目9】 地方自治体や自治体間、子育てする若者の経済活動や働き方のための学習会の実施(国・地方・企業との連携による奨学金制度)

【2】執筆、出版活動に尽力する個人の功績
【賞目10】 書籍「多拠点ライフ」の執筆・出版
【賞目11】 PR(インターネット・テレビ・ラジオ)の活用を通じた教育データ・ポータルサイトの構築
【賞目12】 教育現場における一人一台タブレットの活用を促進する指導書
【賞目13】 民間企業やベンチャー系での働き方推進策の推進、教育現場への伝達
【賞目14】 AI等の最新技術開発時代における地方の成長の推進
【賞目15】 地方大学の機能的活用
【賞目16】 地方における子育て支援の推進

地方創生・親子ワーケーション・関係人口増加文脈にて「デュアルスクール」は取り上げられています。

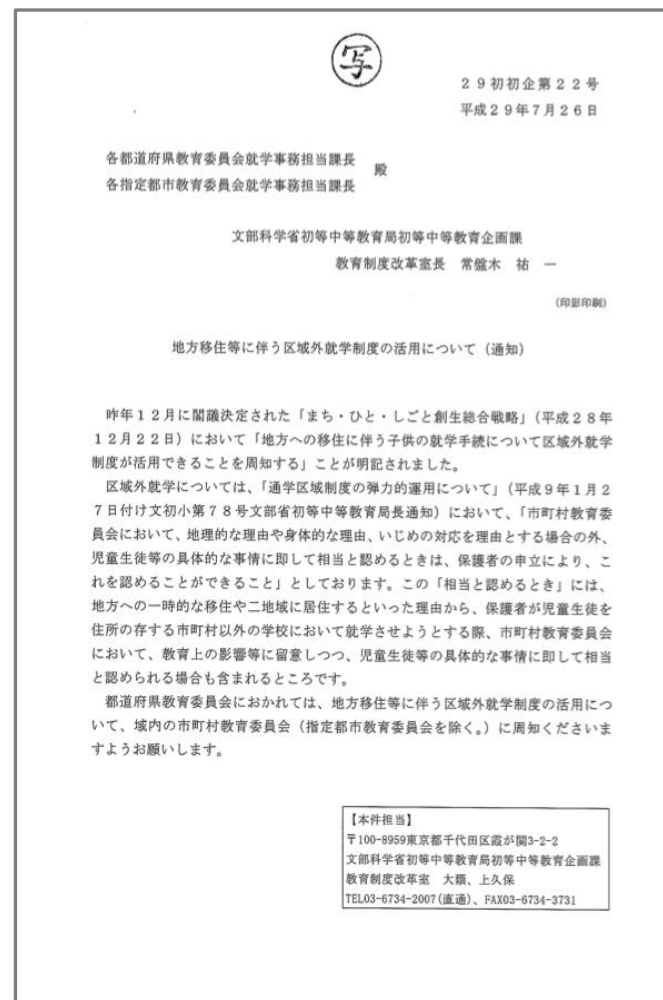
デュアルスクールを後押しする文部科学省の通知

平成28年12月に閣議決定された
「まち・ひと・しごと創生創造戦略」において
「**地方への移住に伴う子供の就学手続きについて
区域外就学制度が活用できる**ことを周知する」
ことが明記された。

これを受け、平成29年7月に文部科学省初等中等教育局より「地方移住等に伴う区域外就学制度の活用について」が各都道府県及び各指定都市の教育委員会へ通知された。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shugaku/detail/1421832.htm

これは平成9年に通知された「通学区域制度の弾力的な運用について」の中で書かれているものよりも、**より自由度・柔軟性の高い制度として、活用を促す内容**となっている。



平成29年7月の文科省通知

受け入れ実績

受入・問い合わせ件数

デュアルスクール受け入れ総数 **30**件以上※平成28年～令和5年

デュアルスクール問い合わせ件数 約**200**家族

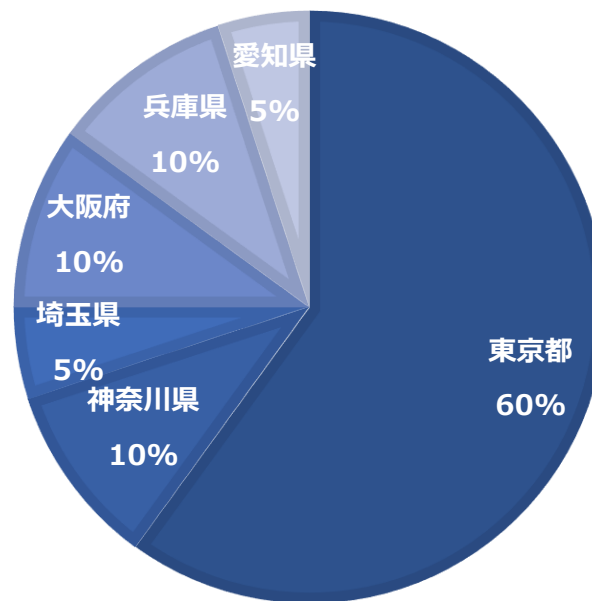
その他実績

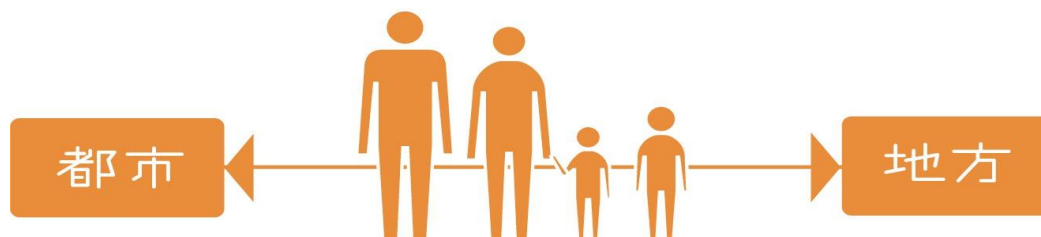
- ・ **リピートする家族**の創出
- ・ **移住者、二地域生活者の創出**

POINT

- ・ デュアルスクール希望家族の豊富さ
- ・ 問い合わせ件数は増加傾向にある

受入家族の所在地





都市の人々のメリット

- ・ サテライトワーク等「**新たな働き方**」を
実践しやすくなる
- ・ 家族での地方移住に向けて「**二地域居住**」ができる
- ・ 地方の豊かな自然や文化に触れさせることで、
子供に多様な価値観を持たせることができる etc…

地方の行政のメリット

- ・ **関係人口や移住者の増加**
- ・ ワークেশンやお試し移住による**来訪者の増加**
- ・ サテライトオフィスがより活用される etc…

地方の人々のメリット

- ・ 子どもが一定期間でも増えることが**純粹に嬉しい**
- ・ 地方と都市の違いや魅力を感じることで、
多様な視点を持たせることができる
- ・ 地方だけでは養えない都市部の**進んだ感覚**
を持たせることができる
- ・ 都市での生活を身近に感じさせることで、
地方の魅力に気付かせることができる etc…

デュアルスクール利用者の声

目的・期待すること

- ・ **多様な価値観**を享受できるようになってほしい
- ・ **主体性**や**積極性**、**コミュニケーション能力**を身につけてほしい
- ・ **地域の方々**と**交流**してほしい
- ・ **人生の選択肢の幅**を広げてほしい
- ・ **親子分離の体験**をしてほしい
- ・ **のびのびとした生活**をしてほしい

実施後の感想

- ・ **毎年**実施したい
- ・ 次は夏休みの**長期間（1ヶ月程度）**で滞在したい
- ・ 子どもの**新たな一面**を知れて驚いた
- ・ 子どもの「ありがとう」という言葉が増えた
- ・ 祖母の家とは別に**もう一つ帰る場所**ができた
- ・ 「**いつか暮らす**」ということも頭をかすめ始めた
- ・ 子どもが**落ち着いて勉強**ができると集中するようになった
- ・ **田舎へのイメージ**が**変化した**

デュアルスクール受け入れ校の声

目的・期待すること

- ・来たいという生徒はなるべく受け入れたい
- ・子どもたちにとって良い刺激となってほしい
- ・ご両親（デュアルスクール実施者）の**故郷を子どもたちに好きになってほしい**
- ・**ふるさと学習**や**自然**、**人のあたたかさ**を知ってほしい
- ・**学校の良さを知ってもらいPRする**きっかけにしたい
- ・**田舎の子どもたちは井の中の蛙**、デュアルスクールを通して**大海を知ってほしい**

実施後の感想

- ・**情操教育や郷土学習につながる**
- ・クラス全体が**活気づいた**
- ・〇〇くんが**いいモデル**となり控えめな子どもたちの**積極性が増した**
- ・子どもたちの**お世話をする気持ち**や**思いやりの精神**が芽生えた
- ・固定化した人間関係に〇〇くんが**新しい風**となってくれた
- ・**社会性**が生まれた
- ・校長と先生間で**教育の質の向上**を話し合う、**見直す**機会ができた
- ・**学校生活に張り合い**が出てきた
- ・**郷土愛の醸成**につながる

デュアルスクール利用シーン

利用シーン①二地域居住

二地域居住を展望するご家族が候補地を探す目的にて実施

期 間：令和元年10月15日～11月1日

児童数：2人

滞 在：三好市 丘の棟（移住お試し住宅）

両親とも東京出身なので
子どもに故郷を作ってあげたい



「ふるさと探訪」では、
学校近辺を散策し、気になるものをまとめた



姉妹で川遊びを堪能

デュアルスクール利用シーン

利用シーン②お試し移住

移住先にて新規就農を検討されるご家族
期 間：令和元年11月18日～11月29日
児童数：3人
滞 在：阿波市 農場内のシェアハウス

子どもが移住候補地の学校に
合うか合わないかを確認



全校朝会にて3兄弟でご挨拶



就農予定の畑
児童もお手伝いをしてました

デュアルスクール利用シーン

利用シーン③里帰り出産

里帰り出産のため、お子さん2人を連れて長期帰省

期 間：令和2年8月24日～11月29日

児童数：2人

滞 在：県西部 母親の実家

里帰り出産したいが
子どもをおいてはいけない



登校初日は少し緊張もみられました



運動会にも参加！ 今では多くのお友だちができました

未来に豊かな可能性をつなぐために 味わいある共創で日本を磨き続けます

親子ワークショップ・デュアルスクール・保育園留学など
実施している自治体はすでに成果が出ています。

場所問わず学べたり友だちができたり、
地方でしか学べない自然や文化に触れられる環境を創れるのも創らないのも
大人次第です。

カッコいい大人として次世代の子どもたちに自由を創りましょう！